

令和2年度 認定こども園栄光幼稚園・自己評価学校関係者評価

1.教育方針

『あそび』を主体とした幼稚園生活からたくましく『生きる力』を育てる。 ～幼児期にふさわしい生活の中で、あかるくのびやかに活動し、健康な体と豊かな心を育てる～	
・つよいて	すこやかな体と、どんな困難も乗り越える強い意志を持てる子
・あかるいて	誰とでも仲良く笑顔でのびのびと行動できる子
・やさしいて	心が広くおもいやりのある子
・かしこいて	良く見て良く考え善悪の判断力をしっかり持てる子
・たくましいて	なにごとにも勇気を持って挑戦する子

2.今年度の主な課題と取り組み

4月から、新園舎、幼保連携型認定こども園として新体制でのスタートに加え、新型コロナウイルス感染防止への工夫や配慮を踏まえた園生活の展開。
・室内・室外の環境を把握し、あそび込める保育を話し合う。
・乳児保育を理解し、職員同士の連携が計れる体制を探る。

3.各項目の自己評価及び達成状況

評価項目	自己評価	取組・達成状況
I.保育の計画性	B	コロナ禍でも安全かつ子どもを主軸とした計画的な保育を行えるよう行事やカリキュラムの見直しと再編成を積極的に行った。
II.保育の在り方・ 幼児への対応	A	ここ数年、幼児が自発的に活動を展開できるような環境整備、あそびの工夫と、それぞれの発達を理解したうえでの丁寧な個別の関りを心がけてきたことが成果として確認できた。
III.保育者としての 能力や良識・適正	A	保育教諭自ら豊かな経験と学びを通して、固定概念に捕らわれない柔軟な姿勢を身につけること、また、建設的で思いやりをもった言動を意識した人格形成に努めた。
IV.保護者への対応	B	保護者の気持ちに寄り添い連携を取りながら共に子どもの育ちを見守り支える環境を意識したが、コロナ禍による対応と発信の難しさが反省に残る。
V.地域の自然や 地域との関わり	B	認定こども園として地域との関りを模索しているが、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策もあり、十分な取り組みが出来なかった。また、園外教育以外でも散歩や近隣の公園に出かけ、自然と触れ合うことができた。

VI.研究と研修	B	コロナ禍で思うように研修を受けることが出来なかった。その分、園内研修や各学年での研究を深める努力を行った。
----------	---	---

4.学校関係者評価

- ・経験の差はあるものの全職員が『子ども主体』で取り組んでいることが感じられた。今後も先輩の良い姿をモデルとして園全体で取り組んでほしい。
- ・コロナ禍であっても子どもたちがのびのびと活動できるように職員が工夫をしている姿が大変好ましかった。今後も一丸となって子どもたちの為に取り組んでほしい。
- ・個々の保育教諭が更にスキルアップする為に、『子どもの姿を通じたケース会議』等の実践的で、全職員が園児一人ひとりを把握する機会を更に積極的にもつとよい。
- ・地域のニーズを把握し、それにどう応えていくかを考えるため、園独自の専門性を明確にした取り組みをしていく必要がある。認定こども園として、子育て中の親が孤立化しないように様々な提供をし、その役割を果たしてほしい。

5.昨年度の課題への取り組み

- ・新園舎でのヒヤリハットを事前に職員間でシュミレーションし、実際の生活の中で危険だと思われる個所はその都度改善できるよう対処した。
- ・昨年度までの幼稚園の歴史と理念を大切にしながら、より充実した教育と保育が出来るよう意識して進めてきたが、新型コロナウイルス対策という課題に思うような活動が出来なかった。
- ・認定こども園として新体制を組むうえでその都度各部署の問題解決をしながら地盤が少しずつ固まってきている。

6.今後の課題

- ・乳児と幼児、それぞれの『ねらい』の共通理解と連携強化
- ・幼保連携型認定こども園としての、社会の役割の摸索と共通理解
- ・保育教諭としての質向上の為の園内研修

7.財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる。